

NHO NEW WAVE 10年の歩み

“ NHO NEW WAVE × 創刊の経緯 ”

NHO NEW WAVEは「研修医・専修医のためのコミュニケーション情報誌」というサブネームがあります。平成16年度より開始された初期臨床研修制度により、NHO病院はそれまでの伝統的な教育システムを生かしつつ研修医の育成

が進められていました。専修医制度は、NHO独自のプログラムを持つ病院で研修することにより、現在のサブスペシャリティ領域の専門医に相当する医師を育成するシステムです。新しい専門医制度が開始され、従来の意義に加え、すでにあ

る領域の専門医として活躍している医師が自分のキャリアを見直し、新たに別の領域を学ぶシステムとして活用していただいています。

本冊子は本部主催の研修や、全国の施設の特徴を広く知ってもらうことを目的に、NHO本部人材育成キャ

リア支援室の医師が編集を担当、取材構成されています。急性期の大病院だけでなく、精神疾患やセーフティネットと呼ばれる重症心身障害児者、筋ジストロフィー、神経難病を主に扱う病院の紹介など、若い医師に役立つことを期待しています。

“ NHO NEW WAVE × 歴代編集担当者が当時を振り返る ”



【担当期間】
vol.1 ~ vol.4

国立病院機構
本部審議役
岡田 千春

現在は本部審議役として、病院・大学などに医師確保・養成で全国を飛び回っている。

創刊時・編集担当時を振り返って

同機構の研修医たちにとって、連帯や情報共有できるツールとして情報誌を企画しました。10年前の企画立ち上げ時、全国院長会議で「いまさら紙媒体では、若い医師は見向きもしない」というご意見や、「これからはWEBで考えるべき」など、この企画を本部内へ通すのに、とても苦労した記憶があります。実際、WEB上に双方向指向のホームページを立ち上げましたが、迷惑メールなどであえなく閉鎖となった苦しい思い出もありました。

思い出に残った企画

創刊号で、当時の理事長矢崎義雄先生と研修医の座談会を企画したことは思い出になりました。「NHO NEW WAVE」というこの情報誌名は、矢崎理事長に命名していただいたものです。

創刊1年目のvol.4制作時には東日本大震災が発生しました。私も医療班のコーディネートのため、岩手県山田町で1カ月にわたり、全国のNHO病院から来る医療班と現地の行

政、医師会、他の医療班との調整を行っていました。並行して作成した同誌の誌面作りには、写真の選別など使命感を持って対応しました。

若手医師へのメッセージ

医療をとりまく環境は急速に変化しています。新たな視点を持ってキャリアを築いてほしいと思います。



編集担当時を振り返って

特集のテーマを決め、構成を練り、現地へ取材に向う、といった仕事が純粋に楽しかったです。ほとんどが初めて向う病院、初めてお会いする方々との仕事でしたので、新鮮かつ刺激的で、貴重な経験をさせていただいたと思います。小児外科医としては特に、小児医療のメッカといえる香川小児病院(当時)、そして後の四国こどもとおとなの医療セン

ターへも訪問させていただき、ありがたい経験でした。また、伺った病院の食堂や研修医宿舎をレポートしたり、編集後記を書いたりもしました。全部が全部、初めての経験でしたが、若い先生方に興味を持ってもらうにはどうしたらよいのか試行錯誤の連続でした。

思い出に残った企画

個人的な興味で毎度伺っていた

「子供の頃の夢」が、いつの間にか医師のプロフィールとしてマストで記載されるようになり、感慨深いです。ちなみに私の子供の頃の夢は「看板屋」でした(笑)。

若手医師へのメッセージ

一人でも多くの若手医師に見ていただきたいので、一読された方はSNSやクチコミでドシドシ宣伝してください！



【担当期間】
vol.5 ~ vol.15

九州医療センター
小児外科 医長
西本 祐子



編集担当時を振り返って

一人でも多くの方が興味を持つ内容ということ、また、一人でも興味があるのであれば情報提供する意味があるのではないかという思いで企画やトピックを選んでいました。

取材では、所属していた病院ですら訪れることのない病院長室に、たくさん訪問させていただきました。院長先生の趣味や好きな音楽などが取材陣と一致して、盛り上がりすぎて時間が押したりしたこともありました(笑)。

思い出に残った企画

vol.23の「重症心身障害児(者)医療」です。良質な医師を育てる研修を企画する中で「重症心身障害児(者)医療」の医療領域を知り、NHOだからこそ経験できる、知ることができる分野だと感じました。実際それまで私自身が知らなかった分野でもあり、研修医・専修医のための情報誌



ではありますが、その他の医療者にも知ってほしいと思った企画でした。

若手医師へのメッセージ

熱心な先生方の良質な研修や、組織力を生かしたフェローシップなど、NHO病院に所属しているからできること、受けられるメリットを、最大限に生かしてほしいと思います。



【担当期間】
vol.16 ~ vol.23
九州医療センター
膠原病内科 医師
石田 素子



【担当期間】
vol.36 ~ vol.39

小倉医療センター
統括診療部長
高月 浩

編集担当時を振り返って

国立病院機構本部医療部で人材育成キャリア支援室長として、NHO病院医師との併任で勤めていました。その仕事の一つがこのNHO NEW WAVEの編集でした。就任時は情報誌を編集した経験がなく戸惑いが大きかった記憶があります。本部企画役の上司や、出版社の方、事務方など、多くの方に手伝っていただき、何とか企画運営、取材、出版まで進められました。全国各地への取材出張は過酷なことも

ありましたが、今では良い思い出です。多くの若手医師にとって、興味・関心のあるものを作ろうという思いで、毎回企画を考えていました。

思い出に残った企画

最初に企画した、vol.36の「がん治療最前線」です。私も血液内科医であり、悪性腫瘍治療にも関わって

いますので、自分自身が興味を持ったことから企画化しました。

若手医師へのメッセージ

国立病院機構には、このNHO NEW WAVEや、良質な医師研修、国内外の短期留学制度など、若手にとって魅力的な制度がたくさんあります。ぜひ活用していただき、またNHO病院でもそのことを活かしてほしいと思います。



NHO NEW WAVE × 歴代編集者の紹介



【担当期間】vol.24 ~ vol.27
仙台医療センター 副院長
鵜飼 克明

思い出に残った企画

最初の企画「新専門医制度」です。研修医の皆さんに理解してもらうため3頁に渡って解説しました。



【担当期間】
vol.28 ~ vol.31
九州医療センター
医療管理企画
運営部長
福泉 公仁隆



編集担当時を振り返って

取材を通して、皆さんの情熱(NHOプライド)を感じました。



【担当期間】vol.32 ~ vol.35
大阪医療センター 肝胆膵外科 科長
宮本 敦史

“新編集担当者×あいさつ”

令和2年4月1日付けで本部人材育成キャリア支援室長を拝命いたしました。普段は呉医療センターの脳神経内科医をしております。東京と呉を行き来する生活のはずでしたが、COVID-19流行の影響で現在は呉にいながテレワークで業務を行っていることが多いです。人材育成キャリア支援室は、NHOの良質な医師を育てる研修をはじめ種々の研修、セミナーに関与し初期研修や専門医制度の情報を収集して各施設と共有することが重要な役目になっています。その中でNHO NEW WAVEについては、かなり自由度高く構成を任されています。将来NHO病院で勤務することも選択肢として考えていただくため、医学生の方にも興味を持っていただけるような誌面構成を考えていきたいと思っています。

COVID-19の影響がまだまだ続き、取材もままならない状態ですが、編集を担当された諸先輩方の熱意はそのままに、さらに親しみやすい情報誌となるよう心掛けてまいります。このような状況下で取材を許可していただいた病院、先生方にはお礼申し上げます。読者の皆さんの声も力になりますので、ご意見もよろしくお願いいたします。

国立病院機構本部
人材育成キャリア支援室長
鳥居 剛

